

[論 文]

韓国「道徳科」教科書における「統一教育」の特徴

한국 「도덕」 교과서 속 「통일교육」의 특징

Characteristics of ‘Unification Education’ in the Moral Textbooks of South Korea

朴 貞蘭

PARK Jeongran

1. はじめに

2018年11月28日、韓国の教育部は、「教育部、市・道の教育庁とともに、平和・統一教育の活性化を推進」すると発表した¹。今回の発表は、平和統一に関する社会的な要求を反映したものであるが、平和と共存の観点と変化している北朝鮮²に対する理解に基づき、未来世代の統一力量を養い平和・統一に対する共感の拡散を図ったものであった³。各学校における「平和・統一教育の活性化計画」⁴の主な内容は、以下のようである。

- 一、教育課程における平和統一教育を強化するために、教育課程及び教科書を補完し、教授・学習コンテンツ開発を推進する。
- 二、教員の専門性を高め、学生における平和統一の共感を拡散する。
- 三、疎通・協業・自治のガバナンスを拡大し、市・道の教育庁、統一部（統一教育院）、関連機関とともに、学校の平和・統一教育の支援体系を構築する。
- 四、市・道の教育庁が教員及び学生を対象とした南北交流事業を提案し、これを体系的・協力的に準備するための基盤を作る。

¹ 韓国・教育部「報道資料」 「教育部、市・道の教育庁とともに、平和・統一教育の活性化を推進」、教育部のホームページ (<http://www.moe.go.kr/main.do>)。

² 本稿では、北朝鮮を「北韓」、朝鮮半島を「韓半島」、小学校を「初等学校」、韓国と北朝鮮を「南北韓」と表記する場合がある。韓国の教育課程、教科書などにおいて使用している用語表現を、あえてそのまま表記することを断っておく。

³ 詳細な内容については、上記の教育部のホームページで確認できる。

⁴ 各計画につき、「(例示) 平和・統一教科授業」、「(例示) 創意的体験活動連携プログラム」、「核心教員研修課程」、「市・道別の研修プログラム」、「韓国—ドイツ学生交流：平和と統一へ、民主市民の道 (2019年1月予定)」、「東北アジア平和体験：鉄道に乗って大陸へ、平和統一想像力作り (2019年8月予定)」、「(例示) 南北教育交流・協力プログラム」などの具体的なプログラムが提示されている。同上「報道資料」、教育部ホームページ。

学校・「統一教育」を持続的・安定的に推進するための中長期計画を立て、平和統一教育の基盤を作ることが本発表の狙いであったが、現在までの「統一教育」方針を「平和統一教育」にしたことは注目すべきであろう。

戦後韓国における「統一教育」は、「反共教育」、「安保教育」としての「統一教育」を実施してきた。2000年南北首脳会談以降、朝鮮半島における平和モードとともに、統一に向けての「統一教育」に力を入れてきたが、2018年度は、上記の教育部の発表からもわかるように、政府側（教育部、統一部）、学校（教員、学生）、市道の自治体（教育庁）が一丸となり、今まで以上に「平和統一教育」に注力していきたいという意図がうかがえる。そこで本稿では、過渡期であるともいえる『2015改訂教育課程』における「統一教育」について、とりわけ中学校の「道徳科」を中心にその特徴について検討していきたい。『2015改訂教育課程 道徳科教育課程』や『中学校 道徳②』の分析に先立って、韓国の教育課程期における「統一教育」の変遷について触れておく。

2. 戦後韓国の教育課程期における「統一教育」の変遷

韓国の「統一教育支援法」⁵は、「統一教育」を促進し支援するのに必要な事項を規定するために制定された法である。第2条では、「統一教育」を「自由民主主義に対する信念と民族共同体意識及び健全な安保観に基づき、統一を成し遂げるのに必要な価値観と態度を養うための教育」とであると定義している。こうした「統一教育」は、「祖国の平和的な統一の使命に立脚し、正義・人道と同胞愛として民族の団結を公告し、（中略）対外には恒久的な世界平和と人類共栄に貢献すること」を示す韓国の憲法の前文と「大韓民国は統一を志向し、自由民主的な基本秩序に立脚した平和的な統一政策を樹立し、これを推進する」と規定する憲法第4条の精神を基にしていると考えられる⁶。このように「統一教育」は、平和的な統一を成し遂げるため、必要なるポジティブ的な認識と望ましい態度を養うことを目標としている。

他方、学校における「統一教育」は、学生の「統一問題」のアプローチに対する正しい理解を図るのにその目的をおく。したがって、学生は学校で行われる教育課程の内容、すなわち教科書を通して統一関連の内容と実践意志が学習できるといえる。このように教科書は、南北韓の統一環境や北朝鮮に対する認識を含む学生の統一に対する望ましい理解と実践が強化できるように構成されている。

学校の「統一教育」を盛り込んだ教科書は、国内外の政治的状況の変化によって敏感に反映された⁷。すなわち、「統一教育」は反共、勝共、安保から、統一、北朝鮮理解、平

⁵ 「統一教育支援法」：1999年2月5日、法律5752号して制定された後、2008年12月31日に全文改訂。以後、2018年3月13日、法律第15433号として一部が改訂され、2018年9月14日から施行された。

⁶ 大韓民国の憲法については、ロエンビ法律事務所のホームページ（<http://www.lawnb.com>）で確認できる。

⁷ 「統一教育」の変遷については、パク・チャンソク「道徳・社会教科書の分析を通してみる統一教育の実際と改善」、韓国倫理教育学会『倫理教育研究』（第20輯、2009年12月、117～140頁）の序論（118頁）を参照した。

和の協調へその目標と内容が変化されてきた⁸。このように学校における「統一教育」の変化過程は、統一を考える時代の重要な内容を盛り込んでいるともいえるかもしれない。民主化時期に入っていた第5次教育課程期（1987～1992年）には、「北韓に対する盲目的敵愾心を脱皮」するという政策に合わせ、「反共教育」から徐々に「統一安保教育」へ変更されていった。第6次教育課程期（1992～1997年）には、「統一教育」が「実質的な南北関係における正しい状況の克服」のために変更され⁹、第7次教育課程（1997～2006年）及び2007改訂教育課程（2007～2010年）における「統一教育」を反映する教科書も、その内容に南北韓の葛藤と韓国社会の保守側と進歩側における見解の差異がみられるようになる。2000年、歴史上初めて開催された南北首脳会談をきっかけに、韓国の「統一教育」は、分断教育から統一教育へ転換し始めたといえる。以後、第7次教育課程では、安保的な側面よりは、民族の和解の側面が強調された。分断50年になったこの年に、南北首脳が平壤で会い抱擁する場面が全国のメディアを通して報道されたことは、反共的かつ冷戦的な「反共教育」の終わりを知らせるものであった。

その後、2007改訂教育課程時期は、道徳科改訂の論議の中において、統一教育の内容に対する立場が南北韓の特殊性に傾いた「民族強調」よりは「米韓協調」を含んだ世界的な普遍性に重点をおく傾向があらわれ、この傾向は2009改訂教育課程期（2011～2016年）まで続くようになる。2015改訂教育課程期（2017～現在）からは、2017年に政権が変わるタイミングに合わせ、「統一教育」から「平和・統一教育」として名称を変更し、2015改訂に合わせた学生主導・体験学習を重視した平和統一に向けた様々な教材を開発やその普及に注力することになる。なお、教育課程時期別の統一教育の特徴及び学校統一教育の関連内容については、【表1】をご参照いただきたい。

3. 『2015改訂教育課程 道徳科教育課程』の特徴

『2015改訂教育課程』¹⁰における中学校道徳科は、学生の負担を考え、内容要素や到達基準が20%ほど減らされた¹¹。理論授業と探求活動のバランスを考えた2009改訂のものに比べ内容要素は最小限にし、学生主導の探求体験活動授業ができるようにするなどの大きな変化が見られる。

⁸ パク・チャンソク『統一教育の成立と過程』韓国学術情報、2007年、292～294頁。

⁹ ユ・ヨンオク『南北教育論』ハクモン社、2006年、229～230頁。ユ・ヨンオク『南北教育論』ハクモン社、2006年、229～230頁。

¹⁰ 教育部『2015改訂教育課程』教育部告示第2015-80号、2015年10月1日。

¹¹ 2009改訂の場合、「内容要素30個、到達基準92個」であったが、2015改訂からは、「内容要素23個、到達基準68個」となり、全体的に20%ほどの分量が減らされた。

【表1】教育課程時期別の統一教育の特徴及び学校統一教育関連の内容

時期（教育課程）	統一教育の特徴	政策・目標及び体制・編成上の特徴
第1次 1954～1963	反共勝共教育	<ul style="list-style-type: none"> ・反共教育・道義教育 ・反共・反日教育内容を含む
第2次 1963～1973		<ul style="list-style-type: none"> ・小中高の教科活動以外に、反共・道徳生活を週に2時間運営。高等学校の国民倫理4単位を実施 ・中学校道徳→『民主生活』と『勝共統一の道』とに分冊に編纂（1978年まで）
第3次 1973～1981		<ul style="list-style-type: none"> ・道徳と独立、共同必須科目 ・道徳科及び国民倫理科の教科として編成 ・平和的統一の志向の目標の試み
第4次 1981～1987		<ul style="list-style-type: none"> ・民族共同体意識の高揚 ・平和統一の信念の涵養 ・統一教育と理念教育の強調
第5次 1987～1992	統一安保教育	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の国民倫理の教養必須からの除外 ・北韓に対する盲目的敵愾心を脱皮 ・統一安保教育の強調（民主化の時期）
第6次 1992～1997	統一教育	<ul style="list-style-type: none"> ・統一教育を道徳科の以外に、全般的な教科に反映 ・安保教育は、統一教育の一環として変化
第7次 1997～2006		<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の総論で統一教育に関する言及なし ・道徳科の高1の一学期の統一教育 ・統一教育の全教科へ拡大の試み
2007年改訂 2007～		<ul style="list-style-type: none"> ・統一教育を道徳科の一部の大単元として限定 ・道徳性中心の教育課程の編成
2009年改訂 2011～		<ul style="list-style-type: none"> ・統一教育を道徳科目の一部の大単元として限定 ・道徳性中心の教育課程の編成、一部縮小
2015年改訂 2017～		統一教育→ 平和・統一教育 (2018年～)

【出典】パク・ソンチュン、イ・スルギ共著『多文化時代の統一教育』ジプムン堂、2016年、20頁。ファン・インピョ「教育課程時期別の統一教育の特徴及び学校統一教育」2014年、272頁を参考にし、筆者が内容（2015年改訂以降）を補足した。

『2015改訂教育課程 道徳科教育課程』¹²によると、道徳科は、「学校人性教育の核心教科」とであるという。具体的には「道徳的な人限と正義のある市民という人間像を志向点とし、21世紀韓国人として備えるべき人性の基本要素である核心価値を確実に内面化

¹² 教育部『2015改訂 道徳科教育課程』教育部告示第2015-74号 [別冊6]、3頁。

し、学生の経験世界から出発し、自身をめぐる周囲の現象を探究、内面の道徳性を省察すると同時に自らの生活の中で実践していく過程を追求する「道徳らしい」時間や空間を提供する教科書である。さらに、内面における道徳性の反省と自ら実践していく過程を重視するために、道徳科においては「自己尊重及び管理能力」、「道徳的な思考能力」、「道徳的対人関係能力」、「道徳的な情緒能力」、「道徳的な共同体認識」、「倫理的省察及び実践性向」の6つの核心力量も設けている。また、内容体系においては、4つの領域が設けられており、『中学校 道徳①』教科書には、「自身との関係」領域が、『中学校 道徳②』には、「他人との関係」、「社会・共同体との関係」、「自然・超越との関係」領域が含まれている。

【表2】「社会・共同体との関係」領域における内容体系

一般化した知識	内容要素	機能
人間の尊厳と文化の多様性を普遍道徳に基づき保障し、 <u>国家共同体の道徳的市民として社会正義及び平和統一実現に寄与し、世界市民として地球共同体の道徳問題の解決のために努力すべきである。</u>	<ul style="list-style-type: none"> ○人権の道徳的意味な何か。(人間尊重) ○多文化社会で発生する葛藤をどのように解決するのか。(文化の多様性) ○世界市民としての道徳的課題は何か。(世界市民倫理) ○国家構成員としての望ましい姿勢は何か。(道徳的市民) ○正義とは何か。(社会正義) ○<u>北韓をどのように理解し考えるべきか。</u>(北韓に対する理解) ○我々に<u>統一の意味は何か。</u>(統一倫理意識) 	<ul style="list-style-type: none"> ○多文化・共同体・世界市民倫理意識の形成能力(中略) ○<u>統一倫理意識の形成能力</u> ・<u>バランスのある北韓観を形成する</u> ・<u>未来志向的な統一観を作る</u>

【出典】教育部『2015改訂教育課程 道徳科教育課程』教育部告示第2015-74号 [別冊6]、8頁より、筆者が作成。傍線は引用者によるものである。

「統一教育」関連の単元は、「社会・共同体との関係」という領域に属されているが、この領域における内容体系は、【表2】で確認できる。「社会・共同体との関係」¹³は、「自分が住んでいる社会と共同体で起こりうる多様な問題を道徳的に探究し省察することによって、社会・共同体の中で正義を目指す成熟した道徳的な市民として生きられる」ようにするための学習をする領域である。

具体的な学習の到達基準7項目にいたるが、「統一教育」に関するものは、以下の2項目である¹⁴。

¹³ 同上書、21～22頁。

¹⁴ 同上書、22頁。引用資料にある傍線は、引用者によるものである。

- ・ 道徳6 北韓と北韓の住民に対する客観的理解に基づき、バランスのある北韓に対する観点を持つことができる。
 - ① 北韓をどのように理解するか。
 - ② 北韓の住民は、どのように生活しているか、彼らは我々にどんな存在なのか。
 - ③ 北韓離脱住民の生活を通してみた統一の課題は何か。
- ・ 道徳7 普遍的な価値追求と平和実現のため統一を成し遂げることと理解し、望ましい統一国家形成のために求められる態度を養うなどの統一倫理意識を持つことができる。
 - ① 道徳的に考えて、統一はなぜ必要なのか。
 - ② 統一韓国をどのように育てていくべきか。
 - ③ 統一国家を形成し世界平和に貢献しようとするれば、どのような姿勢を持つべきか。

『2015改訂教育課程』の道徳科における「社会・共同体との関係」領域では、最初に国家と正義の問題を取り上げ、どんな国家が正義のある国家であるか、望ましい国家構成員としての正義のある市民は何かについて問いかけている。その次に、韓国の国家共同体のもっとも大きな課題といえる北朝鮮問題と「統一問題」を取り上げることで、北朝鮮に対するバランスのある理解やその望ましい方向、そして統一の意味や必要性などを検討することになっている。しかし、現在の教育課程においては、こうした平和統一を実現するための民族・国家共同体の問題と多文化時代における世界市民としての地球共同体問題を別に考えている傾向が未だに強いのではないかと考えられる。これについては、より詳細な考察をする必要があり今後の課題としたい。それでは、次章では、中学校における「道徳科」教科書を取り上げ、その特徴を考察していく。

4. 中学校における「道徳科」教科書の特徴

現行の韓国の教科書は、『2015改訂教育課程』に基づいたものであるが、2017～2020年までの移行時期¹⁵があるため、現在の教科書は、2009改訂教育課程、2015改訂教育課程が混在している過渡期であるともいえる。本章では、2018年度に新しくなった『中学校 道徳②』（全9種）を取り上げ、それぞれの構成や内容の特徴について分析していきたい。『2015改訂教育課程』に基づき2018年度から新しく開発された『中学校 道徳②』は、9社から発行されている。共通して挙げられている「統一教育」関連の単元・内容は、以下のとおりであるが、これは既述した道徳科教育課程における到達基準に合わせた内容体系になっていることがわかる。

¹⁵ 新教科書適用時期：2017年→初等学校1～2年生用、2018年→初等学校3～4年生用、中学校1年生用、高等学校1年生用、2019年→初等学校5～6年生用、中学校2年生用、高等学校2年生用、2020年：中学校3年生用、高等学校3年生用。

- ・大単元：「社会・共同体との関係」
 - ・中単元：「北韓に対する理解」
 - ・小単元：1 北韓をどのように理解すべきか
 - 2 北韓の社会と北韓の住民の生活
 - 3 北韓離脱住民生活を通して見た統一の課題
- ・中単元：「統一の意味」
- ・小単元：1 道徳的に統一はなぜ必要なのか
 - 2 統一韓国の未来像
 - 3 統一国家と世界平和

なお、本稿では、出版社名称の語順（韓国語順）に合わせて紹介していく。単元の構成やその特徴、内容については上記の内容体系に合わせたものや提示資料の中で特記すべきものをまとめた¹⁶。

4-1. (株)ギョハク社『中学校 道徳②』（ファン・インピョ他9人編）、2018年3月1日初版発行、全214頁。

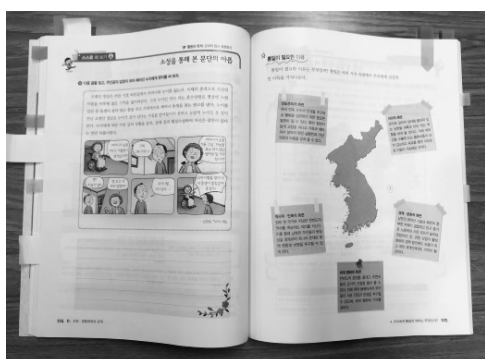
○構成と特徴

- ・「大単元」：全体の内容、学習の方向と目標、写真と挿絵を入れることで学習内容を想像できるように
- ・「中単元」：学生と先生とのやりとり、達成基準、学習の方向を案内
- ・「単元はじめ」：該当単元の核心力量を提示、日常における経験と背景知識を通して自己点検（チェックシート）し、学習の目標を計画する→自己主導学習が可能
- ・「小単元」：学習のきっかけ、事例・根拠などの補足、補足資料、自ら問題を解決、ともに作る→学生による授業作りと協力学習ができるように
- ・「創意・人性・融合」：他科目との連携活動をする
- ・「単元まとめ」：学習の内容確認、自らの活動を行う

¹⁶ 本稿で取り上げる『中学校 道徳②』教科書は、教育部に委託により韓国教育課程評価院が検定審査を行ったものである。9社中8社の教科書は、2017年9月8日付で検定審査が行われ、残り1社である（株）リベルスクール社だけは、2017年9月18日付の検定審査となっている。

○特記すべき内容・資料

「北韓に対する理解」 102～119頁	「統一の意味」 120～137頁
<ul style="list-style-type: none"> ・北韓の漫画と大衆文化 ・統一時代のテレビプログラム ・分断費用、統一費用、統一便益 ・統一の必要性：人道主義的な側面、地理的な側面、歴史・民族的側面、経済・文化的側面、世界平和の側面 ・ドイツ統一から学ぶ南北統一 	<ul style="list-style-type: none"> ・統一に向けての南北間の合意 ・シベリア大陸横断の夢 ・南北の平和的交流と協力 ・南北離散家族の再会、南北の卓球チーム ・統一時代の有望な職業 ・統一学校生活の憲法作り ・親環境的な非武装地帯の活用方法



【写真1】（株）ギョハク社、「統一の必要性」 125頁。

○教科書の特徴：単元ごとにまとめが充実している。到達基準、学習目標が明確であり、自ら計画し活動する項目が多様に用意されている。活動に参考になる統計データ、新聞記事、写真などの参考資料が豊富なところも学習のアプローチの容易さがあらわれている。統一の必要性に関する学習には、他の教科書にはない統一価値の分析が、歴史・民族的側面の他、人道

主義的な側面、経済・文化的側面、世界平和の側面など詳細に挙げられている。

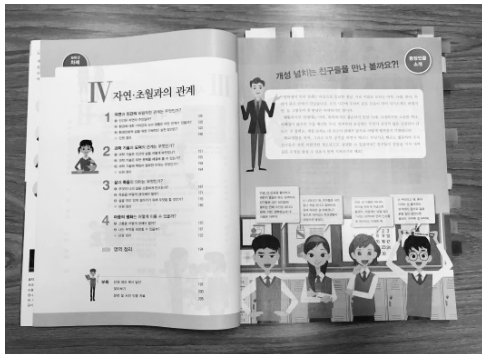
4-2. （株）クムソン出版社『中学校 道徳②』（チャ・ウギョ他8人編）、2018年3月1日初版発行、全208頁。

○構成と特徴

- ・「領域導入」：初中高の学習との連携、基準と単元の把握する
- ・「単元導入／主題導入」：到達基準、自ら考える、学習目標とポイントを提示
- ・「本文」：事例、先生と学生4名の会話、視覚資料、用語説明、自己点検などの資料
- ・「多様なコーナー」：逸話、知識コーナーの提示
- ・「多様な活動」：考えプラス、個別活動、協力活動、創意融合活動ができるように
- ・「単元まとめ」：内容確認、叙述問題、自己点検をする
- ・「領域まとめ」：論述、省察活動をする

○特記すべき内容と資料

「北韓に対する理解」 98～113頁	「統一の意味」 114～131頁
<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体思想、中央集権的計画経済 ・ 南北合作アニメ『ポロンポロンポポロ』 ・ 核ミサイル発射 ・ 映画『太陽の下で』 ・ オリンピックでの南北スポーツ選手 ・ 統一韓国掲示板プロジェクト ・ 北韓離脱住民の脱北経路の地図 ・ 「2016韓半島平和キャンプ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統一ヌリ駅 ・ ドイツ統一の教訓 ・ 統一韓国時代の職業探求 ・ 映画『ヨンピョン海戦』 ・ 開かれた民族主義 ・ DMZの平和的活用 ・ 「完全な国家」：統一費用と便益 ・ 統一韓国の旅行手記：大陸鉄道



【写真2】（株）クムソン出版社、「学習の手助けをする登場人物（中学生4名）」7頁。

○教科書の特徴：『2015改訂教育課程 道徳科教育課程』の6つの核心力量が説明されている。教科書の中で一緒に勉強していく中学生4名（写真と挿絵）が登場しており、学生目線による教育ができることをアピール。「単元まとめ」が問題形式になり、最後に学習の内容が確認できるように。活動に参考になる統計データ、新聞記事、写真などの参考資料も豊富。論

述活動を重視しており、全体的に総合的な学習ができるような仕上がりになっている。他の教科書に比べ、バランスのある北朝鮮理解を求めるために、多様な資料が用いられている。

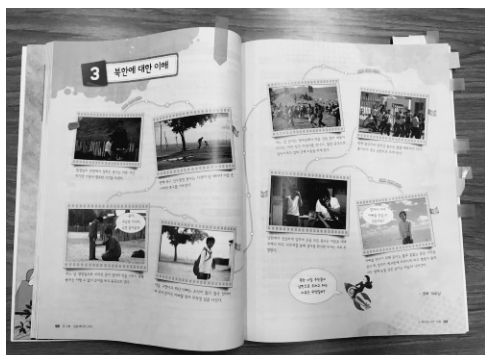
4-3. ドンア出版（株）『中学校 道徳②』（ノ・ヨンジュン他8人編）、2018年3月1日初版発行、全216頁。

○構成と特徴

- ・ 「中単元はじめ」：学習内容と関連している映像資料の紹介
- ・ 「段階別の構成」：導入、展開、整理の学習段階を提示
- ・ 「探求活動と実践活動」：日常生活の中にある事例紹介
- ・ 「創意融合活動」：学習テーマと多様な活動から、融合的な思考と道徳的な感性を養える
- ・ 「中単元まとめ」：まとめ、問題を提示

○特記すべき内容と資料

「北韓に対する理解」 98～115頁	「統一の意味」 116～133頁
<ul style="list-style-type: none"> ・映画『クロッシング』 ・「UN安保理会議演説」 ・映画『太陽の下で』 ・KBS『南北の窓』 ・韓国と北韓の余暇生活 ・映画『ソルジ』 ・北韓離脱住民と統一の課題 ・統一教育院『韓半島の今日と統一』 ・北韓・ヘジュのビビンバ作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・映画『国際市場』 ・南北合作アニメ『ポロンポロン・ポロロ』 ・統一部「統一認識設問調査」 ・統一韓国：観光、人口、所得、国防費 ・統一韓国のための価値観競売 ・世界平和のためのDMZ祭り ・世界平和に寄与する韓国 ・UN難民機構、国境なし医師会、国際アムネシティ、グリーンピース ・統一韓国のマーケティング



【写真3】ドンア出版（株）、映画『クロッシング』 98～99頁。

○教科書の特徴：「単元まとめ」とともに、関連問題（基本問題、叙述系問題、論述系問題）が含まれており、評価結果による自己点検ができる。授業前後に自己点検のチェック欄や用語説明があり、学習理解の助けになっている。単元の導入部分に映画を取り上げ、時代背景や歴史状況を紹介しているが、とりわけ、北朝鮮離脱住民に関する映画・小説、離脱住民の手記や

記事なども他社に比べて非常に具体的に紹介している。統一国家（韓国）が世界平和に貢献する点を強調し、統一教材の4頁も割愛しているところも特徴である。なお、最後の「創意融合活動」学習は、「道徳的共同体意識」を高める学習を目標としてまとめられている。

4-4. （株）リベルスクール『中学校 道徳②』（ガン・ソンリユル他13人編）、2018年3月1日初版発行、全218頁。



【写真4】（株）リベルスクール、「ニュース形式の単元導入」 120頁。

○構成と特徴

- ・「単元はじめ」：学習内容を短い物語を通して紹介、挿絵と吹き出しも採択
- ・「本文及び活動の構成」：自ら作る授業目標、考えを開く、自己省察、自らやってみる、資料探し、本文、概念調べ、参考文献、自ら確認、考えを展開する、ともにやってみるといった構成

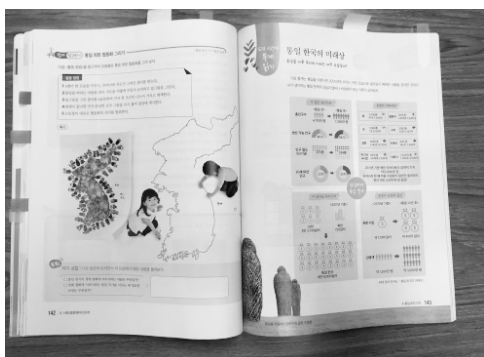
- ・「中単元まとめ」：まとめ、省察する
- ・「道徳でみる〇〇」：深化資料の助けに

○特記すべき内容と資料

「北韓に対する理解」102～119頁	「統一の意味」120～135頁
<ul style="list-style-type: none"> ・映画『戦火の中へ』 ・南北統一サッカー大会、西海交戦、金剛山抑留事件 ・離散家族の生存者データ ・統一費用 ・北韓社会の韓流 ・アニメ『ヘミと北韓からきた友達』 ・映画『クロッシング』 ・北韓離脱青少年の記事 ・北韓離脱住民の韓国定着話 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源発掘共同事業 ・統一旅行商品 ・アジアン・ハイウェイの夢 ・ドイツの「統一連帯税」 ・統一の歌「ONE DREAM ONE KOREA」 ・「統一ファンド」 ・ヨハンガルトゥング「平和論」 ・アニメ『ポロンポロン・ポロロ』 ・統一経済：人気職業、新職業 ・映画『グッバイ・レーニン』

○教科書の特徴：「単元はじめ」は、物語でスタート。「統一教育」単元は、ニュース形式となっている。朝鮮半島地図の挿絵が多い（分断地図、統一地図）。本文中の追加活動には、必ず質問項目があり自己省察（点検）ができるように。最後は、問題形式になっており、単元をまとめやすくしている。他社の教科書にはない、北朝鮮の中学校教科書の写真がある。北朝鮮から離脱した青少年・住民の苦衷に関する記事や紹介が多く、北朝鮮離脱住民への人道主義的な理解を求めている。

4-5. (株) ミレエン『中学校 道徳②』（ジョン・チャンウ他12人編）、2018年3月1日初版発行、全224頁。



【写真5】(株) ミレエン、「統一韓国の未来像」143頁。

○構成と特徴

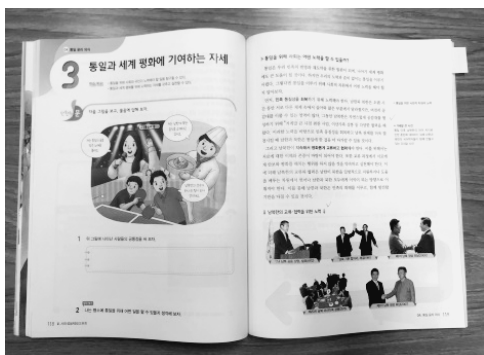
- ・「本文を読む」：学習目標、豊富な事例、用語説明と補充説明の提示
- ・「自ら省察し、まとめる」：自己反省、単元まとめ、実践する人性教室の提示
- ・「読んで考える」：追加資料、道徳の時間に〇〇を読む、論述し反省する
- ・「道徳であるために探求する」：探求の3段階：考えを開く→考えを広げる→自ら探求／ともに探求する
- ・「探求しながら読む」：考えを表現する、事例を検討する、点検し実践するなどの活動

○特記すべき内容と資料

「北韓に対する理解」106～125頁	「統一の意味」126～145頁
<ul style="list-style-type: none"> ・統一教育院 歌「トントントン」 ・ヨンピョン島攻撃 ・板門店、南北離散家族、核ミサイル ・南北分断の背景 ・北韓での選挙 ・UN韓国大使の演説 ・北韓の隠語：北韓住民の人権問題 ・映画『クロッシング』 ・北韓青少年の苦衷 ・南北の文化財 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩：ノ・ウォンホ「春風と鉄条網」 ・統一費用、分断費用、統一便益 ・統一広報の歌作り ・漫画：統一韓国への時間旅行 ・統一韓国希望ニュース ・統一韓国の憲法を作ってみる ・「2016国家別世界平和指数」 ・ドイツの統一 ・統一希望の協力絵（統一地図）を描く ・統一韓国の未来像

○教科書の特徴：単元の導入に歌や詩を多く取り上げており、情緒的な要素を強調。南北の分断背景を充実に説明。新聞記事からの引用が多数みられる。「道徳時間にデータを読む」欄にある「統一韓国の未来像」には、現代経済研究院が分析したデータが挙げられているが、統一国家の2050年を予測することで統一国家を想像させる。内容単元の最後には、内容を確認する項目と叙述する問題が挙げられており、まとめやすくなっている構成。

4-6. (株) ビサン教育『中学校 道徳②』（パク・ビョンギ他13人編）、2018年3月1日初版発行、196頁。



【写真6】(株) ビサン教育、「南北の共同声明・南北首脳会谈の歴史」119頁。

○構成と特徴

- ・「単元はじめ」：学習の核心価値を、童話を通して想像する、学習目標を立てる
- ・「単元の扉」：小単元と関係のある物語を構成、質問を提示し学習動機をあげる
- ・「本文」：教育課程に合わせて日常生活を中心に理解しやすい叙述、用語説明
- ・「活動」：日常生活で経験する様々な道徳の

問題に対する活動課題を提示、道徳的に探究し、倫理的に省察し、自らの生活の中で実践できるような活動

- ・「事例・読み資料」：知識探求、人物探求、古典を読む→道徳的な判断力を育て、自身の考えを整理する
- ・「特別学習」：自ら・ともに「道徳らしさ」を育てる→創意的な活動課題をしながら、学習をまとめる
- ・「〇〇中の道徳旅行」：小説、映画、名画などの視覚資料と読み資料を通して、単元の

核心価値を情緒的に理解し感じる

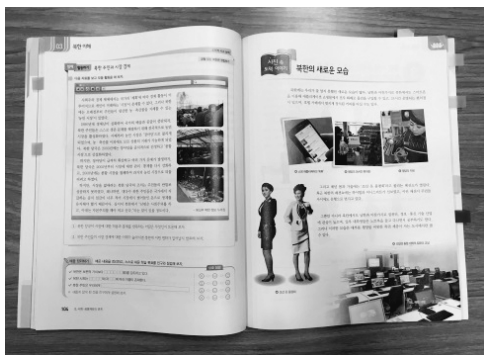
- ・「一目でまとめる」：単元のポイントが確認できる
- ・「問題で確認する」：学習した内容を問題形式で確認する
- ・「自ら評価する」：学習目標を達成できたか自ら確認し、理解できたか点検する

○特記すべき内容と資料

「北韓に対する理解」 94～109頁	「統一の意味」 110～127頁
<ul style="list-style-type: none"> ・北韓の選挙：文献資料引用 ・南北共同応援団の写真 ・南北の風習 ・漫画：北韓の学校生活 ・北韓情報ポータル、統一部のサイト ・活動：北韓中学生の時間割 ・北韓住民の変化：服装、携帯電話など ・UN総会：「北韓人権決議案」 ・北韓離脱住民の韓国定着の成功事例 ・活動：離脱青少年の悩み相談を受ける ・活動：南北の青少年交流祭りを企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界平和指数（GPI） ・離散家族の映像手紙 ・平和統一の四行詩を作る ・漫画：大陸横断列車の話 ・2050年統一韓国学生の仮想日記 ・統一韓国の人気職業 ・南北の共同声明、首脳会談の歴史（事例） ・統一したドイツからの教訓 ・統一への念願を込めたピアノ ・統一壁画を描く学生：統一週間 ・活動：統一新聞作り ・映画『コリア』

○教科書の特徴：「単元はじめ」に「童話」の物語を導入し、学習目標・内容などを理解させる構成。「単元のまとめ」に、学習した内容を問題形式で確認する。自ら評価する（点検する）ことでまとめる。映画の他、小説、名画、漫画などの視覚資料が充実しており、内容が理解しやすい。南北の交流・協力のための努力に関して、南北の共同声明、南北首脳会談の歴史を詳細に説明している。

4-7. (株)ジハク社『中学校 道徳②』（チュ・ビョンワン他10人編）、2018年3月1日初版発行、全201頁。



【写真7】(株)ジハク社、「北韓の新しい姿」105頁。

○構成と特徴

- ・「大単元導入」：挿絵を通して全体の学習内容を把握する
- ・「心を開く」：ドラマを確認する
- ・「学習準備」：自ら学習目標を設定する
- ・「本文の学習」：学習内容の理解、用語説明の提示
- ・「自ら活動する」：核心力量を育てる活動を通して学習の内容を知り、実践できる

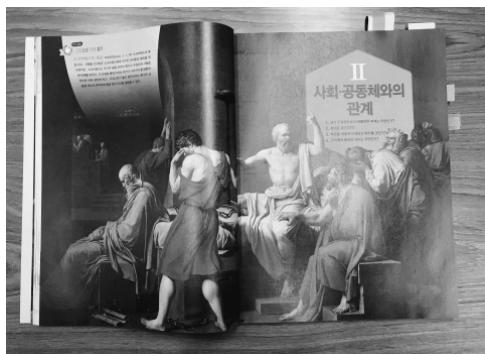
- ・「道徳的に世間を考える」：資料を読む
- ・「ともに活動する」：友達も活動しながら、深化学習をする
- ・「学習まとめ」：学習をまとめ、学習目標に達成できたか友だちと確認する
- ・「道徳の話」：様々な資料を読み、道徳的な思考を拡張
- ・「中単元まとめ」：学習内容をまとめ
- ・「到達基準で内容を点検」：自分の到達基準を確認できる
- ・「大単元まとめ」：学習した核心価値を生活の中で実践する
- ・「全（凡）教科学習」：全教科テーマを道徳的に探求し、大単元をまとめる

○特記すべき内容と資料

「北韓に対する理解」 96～111頁	「統一の意味」 112～129頁
<ul style="list-style-type: none"> ・南北の「道徳」授業の比較 ・統一に対する北韓住民の認識 ・平壤の地下鉄：路線図、駅舎 ・北韓の朝鮮中央テレビジョン編成表 ・北韓理解のためのクイズ ・北韓住民と市場経済 ・北韓の新しい姿 ・漫画：北韓離脱住民の話 ・統一教育院『韓半島の今日と統一』 ・北韓離脱住民の対話 ・私が平壤の中学校へ転校する？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・分断の悲劇：戦争記念館の兄弟銅像 ・南北鉄道復元事業 ・南北共同歴史研究 ・世界平和指数（WPI） ・統一韓国の貨幣 ・統一韓国の未来と私の姿 ・地球の中の韓半島（平和） ・金剛山観光、開城工業団地事業 ・統一について：ドイツからの意見 ・統一はがき／統一UCC作り ・南北韓の資源と技術、南北の鉄道

○教科書の特徴：「導入」に南北の道徳科授業を比較している（北朝鮮の教科名を『社会主義道徳』とし、挿絵には北朝鮮の教室風景もあり黒板の上に指導者2名の写真が掲げられている）。他の教科書にはない「統一に対する北韓の住民の認識」（統一研究院、2014年）のデータもある。また、北朝鮮の変化した新しい姿を、ショッピングアプリ、平壤の24時間コンビニヤカフェ、金日成総合大学のPC教室などの写真・文献資料を取り上げ具体的に紹介。絵画でまとめるコーナーと到達基準で内容を点検するシートがあり、学習に楽しさを求めた。新聞記事やテレビの報道からの資料も豊富である。

4-8. (株) チョンゼ教科書『中学校 道徳②』（ビョン・スンヨン他11人編）、2018年3月1日初版発行、全220頁。



【写真8】(株) チョンゼ教科書、「大単元に名画を紹介し芸術性を上げる」68～69頁。

○構成と特徴

- ・「大単元導入」：関連の芸術作品と単元名をみて、学習内容を確認する
- ・「中単元導入」：主要概念を理解するための挿絵、「この単元で私は」において、学習目標を立てる
- ・「中単元の本文」：考えを悟る、考えを育てる、道徳科の核心力量を育てる、集める、広げる資料を提示

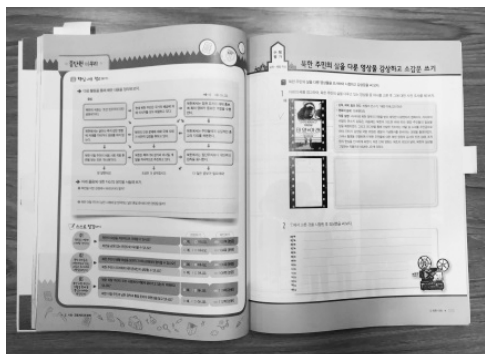
- ・「選択活動」：学習内容と活動を自ら選択する
- ・「単元まとめ」：知る、確認する、点検する、自ら書いてみる
- ・「生活の中の道徳らしさ（生活）」：自ら計画を立て、調査し、報告書を作成するなど、日常生活において道徳生活を実践してみる

○特記すべき内容と資料

「北韓に対する理解」106～121頁	「統一の意味」122～139頁
<ul style="list-style-type: none"> ・統一地図パズル ・南北合作アニメ『ポロンポロン・ポロロ』 ・核実験、ヨンピョン島攻撃挑発 ・北韓の携帯電話（監視対象） ・『南北の窓』 ・北韓離脱住民の数 ・統一壁画：北韓離脱青少年 ・南北韓の統合漢方医者になった北韓離脱住民 ・北韓の言葉 ・北韓の隠語：北韓の人権 ・統一以後の変化：UCCを製作 	<ul style="list-style-type: none"> ・離散家族の再会申請者の状況 ・統一便益 ・ベルリンの壁：統一したドイツ ・統一韓国における職業は？ ・統一ドイツの成長 ・統一のための様々な努力 ・統一関連の動画を鑑賞：統一と関連づけて作文する→安保意識を持つ。 ・6・15南北共同宣言文 ・南北の経済協力モデル ・統一以後の努力：ユンヨンドン『多文化時代の道徳教育のプリズムとスペクトル』

○教科書の特徴：大単元には、名画作品を取り入れ芸術性を上げた。北朝鮮離脱住民が韓国に定着した成功例の話が視野を広げる資料として取り上げられている。統一国家の変化について、学生自らが動画（UCC）を製作する活動があり、「自ら活動する」学習が目立つ。また道徳科の核心力量を再認識させる項目が多い。

4-9. (株)ヘネムエデュ『中学校 道徳②』（イ・ホジュン他19人編）、2018年3月1日初版発行、全211頁。



【写真9】(株)ヘネムエデュ、「遂行評価」131頁。

○構成と特徴

- ・「中単元導入」：到達基準→創意・融合的な思考できるよう芸術作品を提示、人物の会話を通して学習内容を理解
- ・「考えを開く」：実生活と関係のある話を提示
- ・「本文」：自己主導学習を提示
- ・「活動する」：探求・省察・実践活動→自己主導学習へ

- ・「もっと調べる」：より深い理解のため
- ・「中単元まとめ」：自己主導的に学習をまとめる
- ・「遂行評価」：尊重、共感、疎通、協力、参加、正義、配慮などの望ましい人性を育てる
- ・「大単元まとめ」：創意・融合的な思考をする

○特記すべき内容と資料

「北韓に対する理解」100～115頁	「統一の意味」116～133頁
<ul style="list-style-type: none"> ・「君とともに」南北の青少年 ・核実験、潜水艦弾道ミサイル発射実験 ・北韓の選挙 ・北韓の無償義務教育制度 ・「2015北韓に対する韓国人の意識調査」 ・北韓の学生の放課後 ・「朝鮮少年団」、携帯電話、オンラインショッピング ・人権問題 ・北韓離脱住民の就職博覧会 ・北韓離脱青少年の代案学校 ・北韓離脱住民が社会的企業で働く ・映画『太陽の下で』 	<ul style="list-style-type: none"> ・オ・ユン『統一大願図』絵画 ・KBS『南北の窓』 ・戦争記念館の「兄弟の銅像」 ・第1次・第2次ヨンピョン海戦 ・ユラシア親善特急イベント：地図 ・旧東西ドイツ時代のDMZ ・ジョ・ドンホ：統一便益 ・統一韓国で起きうる問題：旧東西人の例 ・民主平和統一諮問会議 ・第2回「統一song」大会 ・活動：「南北協力基金運用管理規定」 ・遂行評価：統一現場体験及び感想文を書く（実践・体験学習）

○教科書の特徴：単元の導入の到達基準を創意・融合的にしてもらうため、芸術作品を取り入れている。尊重、共感、疎通、協力、参加、正義、配慮などの望ましい人性を育てるための「遂行評価」がある。9社の教科書の中で、「北韓の無償義務教育制度」に触れているのは、本教科書のみ。「中単元まとめ」に自ら点検するシートがあり、理解しやすい学習ができる。活動として「みんなで統一についてどう考えるか議論する」ところが設けられており、統一国家形成のための健全な議論ができるようにしている。単元の最後にあ

る「遂行評価」では、「統一現場体験を書く」という実践・体験学習ができるページがある。

以上、9社『中学校 道徳②』教科書に対する構成や内容の特徴について分析した。2018年に新しく発行された9社の『中学校 道徳②』教科書の総合的な特徴は、以下のようによまとめられる。

○構成面

- ・『2015改訂教育課程』が重視している学生主導・体験学習を考え、自ら学習内容を点検し、友だちとともに活動できる授業作りを目指している。
- ・文献資料だけでなく、映画、TVプログラム、歌、芸術作品などの視聴覚資料を豊富に取り入れ学習に対する理解力を高めた。

○内容面

- ・南北交流に対しては、スポーツ、文化事業、学術（大辞典編纂、国際会議、歴史共同研究）方面に関する紹介が多い。
- ・「脱北者」ではなく、「北韓離脱住民」と表記
- ・「北韓離脱住民」の韓国定着をめぐる苦衷に関する教材が多い。→とりわけ、「北韓離脱青少年」の疎外問題を取り上げ、同年代の学生に考えさせるところも多い。
- ・教科書によっては、北朝鮮社会の変化や北朝鮮の学校生活、学生の日課などを詳細に紹介するところもある。
- ・統一ドイツから学ぶ教訓と課題に関する教材が多い。
- ・統一の主体は、「韓国」であるため、統一国家を「統一韓国」と表現している。
- ・統一費用に関しては、「分断費用>統一費用→統一便益が多い」という論理を展開。統一の価値を、歴史・民族的な側面の他、人道主義的、地理的、経済・文化的、世界平和寄与という側面から分析している。
- ・北朝鮮の資源開発やDMZ（非武装地帯）の有効な活用、「ユラシア」大陸横断鉄道事業、新しい職業の創出など、統一に伴う経済的な効果・利益を強調している。→若い世代にみられる「統一への実現意志離れ」を懸念し、統一の必要性を経済的な価値におく。
- ・統一を民族・国家の問題だけでなく、「世界平和に貢献」という普遍的な問題として取り上げている。→「世界平和寄与」価値を強調。

次章では、韓国の統一部・統一教育院が発行した「統一教育」関連の資料について紹介する。

5. 韓国の統一部・統一教育院における「統一教育」関連資料

韓国における「統一教育」は、教育課程に基づいた教科書における「統一教育」の他に、政府機関である統一部・統一教育院による教育活動も看過できない。統一教育院は、

多数の関連資料を開発し、その普及のために精力的な活動を行ってきた。本章では、統一部・統一教育院が作成した「統一教育」関連資料について紹介していく。

韓国政府は、「統一問題」と北朝鮮の実状に対する国民の理解を高めるため、毎年『統一問題の理解』と『北韓理解』を発行している。2017年には、全国の主要教育機関にそれぞれ9万部以上を配布して、大学生と一般人対象の基本教材として活用できるようにした。

また、誰もが統一問題に関心が持てるように、楽しい素材を活用して図書と映像資料も開発してきたが、代表的なものとして、初・中等学校用の『韓半島の今日と統一』（初等3～4学年用、5～6学年用、中学生用）という3種の参考教材とその教師用指導書、自由学期制の授業に使用できる進路・職業体験教材である『統一を掴め』などが挙げられる。この他に、在外コリアンのための『統一、こんにちは』とその教師用指導書を日本語版として制作、また『2017北韓理解』の英語版も制作した。さらに、統一未来の主演である青少年と一般人が、統一に対してポジティブな認識が持てるように、多様な映像資料を開発した。具体的には、放送メディアを活用して2本のキャンペーン広告と3本の特別プログラムを製作し放送するなど、規模からいっても学校や社会における近年の「統一教育」を担ってきたといえる。統一教育院が開発した「統一教育」関連資料は、【表3】をご参照いただきたい。

なお、統一教育院が開発した資料の中で最新のものは、「統一教育」の基本方向を新たに提示した『平和・統一教育：方向と観点』（統一部・統一教育院、2018年8月：2018年10月に一部改訂）である。この資料は、統一教育院が2000年～2016年にわたり発行してきた『統一教育の指針書』の名称を変更したもので、内容も現在の状況に合わせて改訂したものである。内容は、平和・統一教育の「目標と課題」、「重点的な方向」、「教育方法」と構成されている。今回の改訂について、「上からの統一教育の脱皮」、「統一教育の基本方向の提示」、「社会的合意形成」に重点をおいたとし、改訂案の名称を「政府中心の上からの統一教育から脱」し、社会的合意を強調するために「指針書」という用語の代わりに『方向と観点』に変更したという。毎年発行される基本教材を要約して、知識と情報を伝える方法を改編、「統一教育」の基本となる方向を提示することで持続的に使用できるようにした。一方、既存の指針書の限界（政策の広報、偏向性など）を改善するために、「統一教育」の関連機関及び団体・各界の専門家や学校の現場などから受けた様々な意見を反映している。その結果、広範囲における社会的合意に基づき、「統一教育の重点方向、15項目」も作成することができたという¹⁷。

また、この資料では、「平和統一への実現意志の涵養」¹⁸を重視しており、分断が70年以上に長期化することにより、一部では分断状況を現実として受け入れ、統一を負担に思

¹⁷ 統一部・教育院『平和・統一教育 方向と観点』2018年8月（2018年10月、一部改訂）。この資料は2万部を発行し、各学校、教員養成機関及び教育訓練機関、統一教育団体などに配布された。また、統一教育院のホームページ（<https://www.uniedu.go.kr>）の「資料広場」に公開されており、誰でもダウンロードして使用できる。

¹⁸ 同上書、6頁。

う傾向があると分析している。特に、若い世代にとっては、統一が「民族的・当為的な義務」として受け入れられていないことを懸念しており、その対策として以下のような見解を展開している。

【表3】統一教育院が開発した「統一教育」の関連資料の一部

区分	資料名	主な内容	対 象
基本 教材	『統一問題の理解』	統一問題に対する観点、歴史の中における統一、南北関係の展開、周辺国と韓半島の統一、我々の統一努力、統一ビジョンと統一準備	大学生、大人、 教師など
	『北韓理解』	北韓理解の観点、北韓の政治体制と統治理念、対外政策と対外関係、軍事戦略と軍事力、経済状況と変化、教育と文化、社会と住民生活	
	『平和・統一教育：方向と観点』	平和・統一教育の目標、重点方向、内容、方法、統一教育支援法（付録）	
学校用 参考 教材	『韓半島の今日と統一（初等5～6学年用）』 ¹⁹	南北分断の原因、北韓の姿、統一未来のビジョン、統一方案、統一のためにできること	初等学生
	『韓半島の今日と統一（中学生用）』	南北分断の原因、南北関係の歴史、北韓の生活、統一の必要性、統一方案	中学生
教師用 図書	『韓半島の今日と統一（初等用）』	南北分断の原因、北韓の姿、統一未来のビジョン、統一方案、統一のためにできること	教師など
	『韓半島の今日と統一（中学生用）』	南北分断の原因、南北関係の歴史、北韓の生活、統一の必要性、統一方案	
	『統一、こんにちは』	韓国の韓民族のアイデンティティ、南北関係及び北韓の理解、統一の必要性、統一のための在外コリアンの役割	

【出典】統一部『2018統一白書』印刷所：（社団法人）障害者同伴成長協会、2018年4月、190頁を参考に筆者が作成。上記の資料の他にも、「視聴覚障害者用教材、外国語教材、進路職業体験教材、北韓離脱住民教材、参考資料」などの開発教材がある。なお、2018年8月に発行された『平和・統一教育：方向と観点』については、筆者が追加した。

¹⁹ 初等3～4年生用の資料は、2018年9月に発行されているが、初等用5～6学年用にはない「QRコード」による資料導入により、北朝鮮に関する動画資料を参考できるようになった。統一部・統一教育院『韓半島の今日と統一 初等3～4学年用』教学社、2018年9月。

(前略) 統一をすべきより現実的な理由を多様な側面から提示することが必要である。統一は、分断により南北韓の住民が経験している苦痛と不便を克服するために達成すべきことである。また、わが民族の再跳躍のためのステップであり、(統一をすれば：引用者) 韓半島と東北アジア、ひいては国際平和に貢献できるし、人類普遍的な価値が尊重され人間らしい生活が保障されることを考えさせるべきである。(後略)

上記の他、「健全な安保意識を高めること」、「バランスのある北韓観の確立」、「平和意識の涵養」、「民主市民意識の高揚」が「統一教育」の具体的な目標として挙げられている。

既述したように、統一教育院では、「統一教育」関連資料の他、「統一教育」の現場で教育が実施できる専門家を対象とした研修プログラムも運営した。社会各界の最高経営者、公務員、公企業の職員、学校の教員と民間団体の役員を対象とした「統一教育」プログラムを進めるなど、各現場における統一認識改善を徹底した。それから、様々なサイバー教育の実施とともに、2013年以後、毎年5月の4週目を「統一教育週間」とし、学校と地域社会を中心に多様な「統一教育」を実施している。2017年には、全国規模の初中高等学校における統一関連の「契機授業」²⁰や全国各地で行われた参加型のイベントも実施した。全国17カ所の「地域統一教育センター」が実施した参加・体験型のイベントには、2017年の一年間、約30万名の市民が参加し、この他、約110万名の市民が全国にある12カ所の「統一館」を訪ね、統一関連の展示を観覧したという²¹。

6. おわりに

本稿では、韓国の「統一教育」の実態を考察するために、『2015改訂教育課程 道徳科教育課程』と2018年度から新しくなった『中学校 道徳②』教科書を取り上げ分析した。

戦後韓国における「統一教育」は、「反共・安保教育」から「統一教育」へ移行していく第5次教育課程期には、「統一・安保教育」という内容変更が行われた。その後、第6次教育課程期に入り、「統一教育」は実質的な南北関係における状況を克服するために変更されていく。第7次教育課程からは、2000年南北首脳会談の影響もあり、安保的な価値よりは民族の和解という側面が強調されるようになる。2009改訂にいたっては、南北間の「民族協調」よりは、「米韓協調」が重視される内容になり、世界的な普遍性を求める傾向があらわれた。さらに、2015改訂教育課程期には、平和統一に向けた新たなビジョンが掲げられ、「平和・統一教育」を目指す方向へと変化するようになる。

²⁰ 各学校の統一教育授業で使用できる「契機授業」用として、初等学校・中学校・高等学校向けの「統一教育」関連のPPT資料を作成し、誰にでも利用できるように統一教育院の「資料広場」コーナー(統一部・統一教育院ホームページ：<https://www.uniedu.go.kr/>)で公開している。この資料については、日本比較教育学会第54回全国大会(2018年6月24日)で、「韓国初等学校における「統合教科書」の特徴－「分断」意識・「統一」教育を中心に」という発表において紹介した。

²¹ 統一部『2018統一白書』印刷所：(社団法人) 障害者同伴成長協会、2018年4月、182～183頁。

『2015改訂教育課程 道徳科教育課程』では、北朝鮮に対するバランスのある理解、統一の意味と価値を考えさせる単元内容と目標が掲げられており、この教育課程に基づき、2018年度に新しく発行された『中学校 道徳②』教科書は、全部9種類にもわたる。これらの教科書は、出版社によって様々な特徴がみられた。共通してみられる特徴の中で最も注目すべきところは、統一教育院の『平和・統一教育：方向と観点』においても指摘している、若い世代に存在する「統一への実現意志（統一意識）離れ」に対する対策教材であった。各教科書では、「韓半島の統一価値」を分断背景から学ぶ歴史・民族的な側面だけではなく、「北韓住民の人権」を回復させるための人道主義的な側面、統一国家がもたらす経済的・文化的な効果などの側面、ひいては世界平和への貢献という側面からもその価値を位置づけている。

なお、韓国の「道徳科」教科書における「統一教育」には、多文化社会という時代の流れの中で新たな課題が問われていると考えられる。それは、分断意識から生まれる民族共同体（統一国家）志向を越えた、多文化時代における多様性と統一性の調和を通した「多文化統一教育」²²への課題である。対立と葛藤ではない、和解と協力のメッセージが盛り込まれた多文化時代における世界市民養成の「統一教育」のためには、今後さらなる検討と考察が必要であろう。

最後に、本稿で取り上げることができなかつた戦後韓国の「道徳科」教科書における「反共→安保→安保統一」教育の考察については、現在の「統一教育」を考える際に最も重要な作業ともいえよう。筆者は、その資料調査のため、2018年11月に韓国の教科書博物館（株）ミレエンを訪問した。戦後韓国の国定教科書を発行してきた大韓教科書株式会社（1948年9月創立）は、2013年ミレエン（MireaN）²³に名称を変更したが、2003年、韓国最初の教科書博物館²⁴を開館する。この教科書博物館には、戦前・戦後期にわたり韓国で発行された教科書が所蔵されており、教科書博物館のジョン・ムンジュ学芸研究室長やジョ・ユンファ社員のご協力により、戦後初期から第7次教育課程までの初等・中学校の「道徳科」教科書における反共・安保教育の資料を調査することができた。これらの分析は、次年度の日本比較教育学会や論文などにおいて、発表・公開の予定である。

〔付記〕

本研究は、日本比較教育学会第54回全国大会（2018年6月24日、於・東広島芸術文化ホールくらら）にて、「韓国初等学校における「統合教科書」の特徴—「分断」意識・「統一」教育を中心に—」というタイトルで行なった個人発表の一部であり、科学研究費・基盤研究（C）「戦後韓国における「分断イデオロギー」教育の形成と展開—教科書・体験学習を中心に—」（課題番号：17K04725、平成29～32年度）の研究成果の一部である。

²² 「多文化統一教育」については、ガン・ジンウン「韓国社会の種族的民族主義と多文化統一教育」『教育文化研究』第21-3号、2015年、253～275頁をご参照いただきたい。

²³ （株）ミレエン出版社は、2017年8月に「統一初等国語教科書開発基礎研究」の学術大会も開催するなど、近年教科書における「統一教育」教材開発に注力している。

²⁴ 教科書博物館については、<http://www.textbookmuseum.co.kr/>をご参照いただきたい。

